

令和2年5月7日

未来への扉 4

校長 平野 雅仁

皆さん、元気に過ごしていますか？

今日は、私の好きな幕末の志士を紹介します。幕末の志士というと、皆さんは、どういった人物を思い浮かべますか？長州藩の高杉晋作や桂小五郎、薩摩藩の西郷隆盛や新選組の土方歳三や沖田総司といった人たちでしょうか？どの人たちも偉大だと思いますが、その中でも特にすごいと思う人物がいます。その人の手紙の中には、こんな言葉があります。

ニッポン 洗 濯
日本を今一度せんたく申し候ことにいたすべくとの神願にて候

その人物はというと、皆さんも既に小学校の時に薩長同盟や大政奉還の時に習ったことがあると思いますが、土佐の郷士 坂本龍馬です。

文久3（1863）年6月29日に 姉の坂本乙女に宛てて書いた手紙です。

龍馬の手紙は、現存するものが139通あります。

嘉永6年（1853）9月23日に故郷（土佐）の父に宛てた手紙（19歳で剣術修行のため、高知から江戸の京橋桶町の北辰一刀流「千葉定吉道場」に入門）から勝海舟の弟子になったことや慶応2年（1866）32歳・薩長同盟・寺田屋での襲撃・お龍との新婚旅行など、実に、明るくまっすぐな性格で、当時の様子を生き生きと描写しています。そして、ユーモアのセンスがあります。

生涯最後の手紙は、慶応3年（1867）33歳で京都の醤油商・近江屋で刺客に襲われる4日前（11月11日付、林健三宛て）のものでした。

龍馬には、壮大な夢がありました。倒幕後の日本のデザイン・新国家の構想がありました。そのような思いを抱き始めたころに書かれた手紙です。

幕末史を見ていくと、慶応元年（1865）までと、慶応2年（1866）以降で時代は大きく変わっていきます。龍馬の人生も大きく変わっていきます。

1. 土佐時代（天保6年・1835に生れる）
2. 江戸での剣術修行時代（嘉永6年・1853 黒船来航 19歳）（刀の時代）
3. 脱藩から勝海舟との出会い海軍に目覚め、亀山社中を結成した時期（銃の時代）
4. 慶応2年から刺客に襲われる慶応3年（1867）11月15日・33歳までの2ヵ年。

（法律の時代・万国公法）短い人生で3世を生きたとわれています。

龍馬の書簡についての研究は、宮地佐一郎『龍馬の手紙』（講談社学術文庫）に詳しく書かれています。

私が、なぜ、これ程までに「坂本龍馬」に魅了されるのかということ、3冊の書物と実際に土佐の高知、桂浜に立つ龍馬像を見たからということになります。



1. 中学時代に読んだ司馬遼太郎の『竜馬がゆく』です。

竜馬は突如、中岡（慎太郎）をみて笑った。澄んだ、太虚のようにあかるい微笑が、中岡の網膜にひろがった。

「慎ノ字、おれは脳をやられている。もう、いかぬ」

それが、竜馬の最後のことばになった。言いおわると最後の息をつき、倒れ、なんの未練もなげに、その霊は天にむかって駆けのぼった。

天に意思がある。

としか、この若者の場合、おもえない。

天が、この国の歴史の混迷を收拾するためにこの若者を地上にくだし、その使命がおわったとき惜しげもなく天へ召しかえした。

この夜、京の天は雨気に満ち、星がない。

しかし、時代は旋回している。若者はその歴史の扉をその手で押し、そして未来へおしあけた。

京都の近江屋で、刺客に中岡慎太郎と坂本龍馬が襲われる場面です。8冊の文春文庫に収録されています。何度も読み返しているのですが、今では紙が黄ばんで、傷んでいますが、司馬遼太郎の描く竜馬から勇気や大きな志、人に対するいたわりや優しさをもらっています。読み終わると、また最初から読みたくなる愛読書の一冊です。



2.

有名な話ですが、歌手で俳優の武田鉄矢さんは、無類の坂本竜馬ファンです。好きが高じて、バンド名も海援隊と名付けていますし、映画『幕末青春グラフィティ Ronin』で、自ら竜馬役を演じています。

その武田鉄矢さんが原作、『おれは直角』『がんばれ元気』『あずみ』などで有名な漫画家の小山ゆうさん作画のコラボレーションで、『お〜い！竜馬』小学館があります。特に少年期の竜馬を想像させる母親とのエピソードなどが感動的です。

別掲にて、読んでみてください。[\(別掲へ移動します\)](#)



3. 最後に、『英雄たちの選択』や大河ドラマ『麒麟がくる』などの時代考証でお馴染みの国際日本文化研究センター准教授の磯田道史氏の『龍馬史』文春文庫です。

あえて、私も今まで龍馬を襲った刺客たちについては、触れてきませんでした。龍馬の魅力をより深くしているのは、この誰が龍馬を殺したのかという点にもあるかと思います。

諸説いろいろありますが、磯田氏は、「龍馬の暗殺に謎なし」と言い切っています。

醤油商・近江屋を襲撃した刺客の7人は、はっきりとわかっています。見回り組の佐々木只三郎をはじめとした7名です。ただし、その背後には、黒幕がいたのではないかといろいろな言われています。

◎ 果たして、黒幕はいたのか？

新選組説

紀州藩説

土佐藩説

薩摩藩説

会津藩説

龍馬は、実にいろいろな人に会いに行きます。そして、その人に惹かれると小さな藩の壁を越えて、身分や立場や敵、味方もなく付き合っていきます。江戸幕府を倒おして、諸外国との関係を築かなければならないと、幕臣の勝海舟を千葉重太郎と一緒に殺そうとして勝のところへ行きましたが、逆に勝に惚れこんで、弟子にしてもらったり、長州藩の桂小五郎と薩摩藩の西郷隆盛が藩の面子にこだわって、なかなか会おうとしないところを強引に会わせて、薩長同盟を盟約させたりしました。暗殺前も幕府側の永井玄蕃（尚志・なおのぶ・永井家では、なおゆき）の住居をたびたび訪ねています。その永井の隣に住んでいたのが、会津藩の公用人 手代木勝任・てしろぎかつとう）、その弟が、佐々木只三郎です。手代木がキーパーソンになって、会津藩（京都守護職・松平容保）一見回り組のルートで命令が出されたと磯田さんは、考えています。 これからも磯田説を踏まえていろいろと議論されていくと思います。

今日は、坂本龍馬をめぐって幕末史や歴史上の人物についても考えてみました。

そして、なぜ、坂本龍馬は、暗殺されなくてはならなかったのか？という歴史の謎にも迫ってみました。一人の人物として、魅力的であるということと、立場や主義の異なる側からしてみると、非常に危険な人物・障害となるやっかいな人物であったのかもしれない。

連休中もテレビで、第 35 代アメリカ合衆国大統領ジョン・フィッツジェラルド・ケネディ：John Fitzgerald Kennedy は、どうして暗殺されたのか？そして、その背後には、黒幕がいて陰謀が働いていたのか？という番組がありました。

偉大な人物だからこそ、謎が謎をよんで、多くの人がその死を傷み、その人物の志をいつまでも忘れないようにしようとするのではないのでしょうか？

皆さんにも大きな志をもって生きていってほしいと願っています。

ぜひ、歴史に興味のある人は、自分で調べてみたり、社会科の先生に聞いてみたりしましょう。